

肩書きに憧れて

第13期OB 小黒 祐貴

慶應卒の商社マン。そんな肩書きに憧れて、特にやりたい事もないままこの世界に入り込んだ私だったが、実際の社会人生活は想像していたほど、華やかなものでは無かった。

一昨年の春、周囲に流されるままに就職活動を行っていた私は、特に何かを成し遂げたいという強い気持ちもなく、また自分がどのような職業にあっているのかもわからないまま、手当たり次第にエントリーシートを提出していた。私は企業が開催する説明会にもほとんど参加していなかった為、友人達からの情報を頼りに企業選びを行っていたのだが、そんな中で友人達が口を揃えて話していたのが、「商社マン」という職業であった。仕事では世界中を飛び回り、仕事が終われば銀座や六本木に繰り出して夜を明かす。一度合コンに参加すれば、その肩書きだけで周囲から持て囃される。そのような華やかな社会人生活に憧れを持った私は、総合商社を志望し、希望通り入社する事となった。

昨年の春、入社式を終えて晴れて商社マンの一員となった私は、1ヶ月後に行われる配属発表を前に浮き足立っていた。私は、社内でも華やかな食料関係の部署や若手でも世界中隅から隅まで飛び回っているよ



第13期同期会にて（著者は中央）

うな電力関係の部署を希望しており、日々行きたい部署のことを考えながら夢を膨らませていた。ところが、そんな私に通告された配属先は派手やかな営業部ではなく、裏方の財務部であった。財務部は他の営業部署とは打って変わって、物静かな人が多く、また海外出張に行く機会もほとんど無い。華やかな社会人生活を夢見ていた私にとってこの配属通告は悲痛なものであった。

財務部への配属が決まった当初は悲しみに暮れ、同部署配属の同期達と毎日のように居酒屋で慰め合っていたが、実際に業務を熟す内に、財務の重要性に気付かされるようになった。財務部の主な業務は銀行や投資家からお金を借り入れ、借りたお金の使い道を考えることである。簡単そうに聞こえるかもしれないが、奥が深い。一重にお金を借りるといっても誰から借りるか、どのような名目で借りるかによって金利も大きく異なり、0.01%でも安く借りるために努力する。また借りたお金の使い道として近年は会社全体で投資事業に力を入れており、様々な評価基準を元に投資先の判断を下すのも財務部の業務である。

現在、私はお金の借り入れ業務に携わっているが、将来的には会計知識や M&A の知識を習得して、投資事業に携わりたいと考えている。

そんなこんなで、入社前に描いていたような華やかな社会人生活を送れている訳では無いが、現在の仕事には満足しており、やりたい事も見つけることが出来た。肩書きだけに憧れてこの会社に入社したが、肩書きではなく中身で評価される人間になれるよう、今後も業務に精励する所存である。



第 13 期同期会にて、一年越しで卒論集を先生に手渡す著者